

太平洋イカ類漁場調査

(抄 録)

今村 豊・黄金崎 栄一

2000年6月～10月に西経175度以西の海域で、試験船開運丸(208トン)及び試験船東奥丸(140トン)でスルメイカ・アカイカの漁場調査等を実施した。調査は7、9月の計2回行ない、2回目の調査では、アカイカの標識放流を行った。放流尾数は675尾であった。

スルメイカ

2000年本県太平洋沿岸に来遊したスルメイカは、6月13日に白糠、7月1日に八戸で漁期が始まった。

太平洋の漁期入りはやや遅れ気味で、出足こそ低調だったものの7月中旬以降漁獲をのばし、漁期終了までの累積漁獲量(ウオダス漁海況速報より)は白糠で1,191トン、八戸で5,445トン(前年白糠988トン、八戸3,037トン)の漁獲となり、前年を上回った。

また、小型いか釣船によるCPUE(1隻1日当たりの漁獲量)も99年の0.36トン/隻/日から2000年の0.57トン/隻/日と前年を上回った。

発表誌：平成12年度いか釣漁場開発調査資料26号及び平成12年度外洋性イカ(スルメイカ・アカイカ)に関する生物測定・標識放流・海洋観測結果基礎資料集 青森県水産試験場